1　会議名	令和２年度　第１回総合教育会議　会議録
2　開催日時	令和２年７月８日（水）午前 10 時～12 時
3　開催場所	全員協議会室
4　出席者	市長　福田　良彦 教育長　守山　敏晴 教育長職務代理者　西村　宏 教育委員　村尾　利勝、廣田　登志子、竹田　千恵
5　欠席者　なし	
6　説明のため出席した者 教育次長　三浦　成寿 学校教育課長　林　孝志、主幹　仁田　誠彦 青少年課長（教育センター所長）　福屋　憲道 文化財保護課長（岩国徴古館長）　後　詳子 生涯学習課長（中央公民館長）　村重　加代子 中央図書館長　山本　圭子 科学センター館長　林　孝造 英語教育推進室長　鬼武　伸哉、次長　永木　健一	
7　事務局 教育政策課長　村上　さゆり 施設班長　兼重　康則、政策班長　大黒屋　誠 政策企画課長　國廣　光秋	
8　協議事項 令和２年度主な取り組み（教育関係施策）について	

教育政策課長	定刻になりましたので、令和２年度　第１回岩国市総合教育会議を開催します。なお、本日の会議の終了予定時間は 12 時としておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。 それでは、開催にあたりまして、福田市長に御挨拶をお願いします。
市　長	皆さん、おはようございます。この岩国市総合教育会議は、通算で今回が 11 回目となります。岩国市の様々な主要な教育行政に関する施策について教育長、教育委員の皆様と意見交換の中で今年度もしっかりと進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。また、御案内の通り、廣田教育委員が再度、教育委員をお引き受けいただきました。今後とも御指導のほど、よろしくお願いいたします。 では、委員、一言お願いします。
廣田教育委員	皆さん、おはようございます。３期目の９年目になります。様々なコロナ対応に迫られていますけども、とにかく、岩国で育ってよかった、岩国で教育を受けてよかった、という子供たちのために教育と教育行政が連携できて、教育ができるように初心に帰って頑張りたいと思います忌

市　長	憚のない意見交換をしたいと思いますので、委員の皆さん、よろしくお願いいたします。
教育政策課長	それでは、議事の進行につきましては、岩国市総合教育会議運営要綱第４条第３項により、市長にお願いいたします。市長、よろしくお願いします。
市　長	それでは、お手元に配布しております次第に沿って、協議を進めていきたいと思いますので、御協力をお願いします。 まず議題であります、令和２年度の主な取り組み、教育関係施策について、協議いたしますので、順次説明をお願いします。
教育政策課長	教育政策課です。 それでは、資料に沿って御説明をさせていただきます。令和２年度主な取り組みの資料を御覧ください。 まず、小学校低学年トイレセミリフォーム事業です。平成 29 年度からトイレセミリフォーム工事を実施してきており、今年度は通津小学校及び岩国小学校において実施するものです。また、小・中学校ともに施設整備費の中で、修繕要望や特別な事情がある場合は、個別の対応を速やかに行っております。 次の東小・中学校校舎建設事業ですが、７月 22 日に校舎完成予定となっておりまして、太陽光発電設備も同時期に完成予定となっております。８月から小学校講堂ほかを解体いたしまして、プール・部室棟建設工事を来年度にかけて実施いたします。また、旧校舎を解体いたしまして、中学校校舎跡地のグラウンド整備も来年度にかけて実施いたします。今年度予算額は、29 億 1,520 万円で、財源は、文部科学省と防衛省の国庫補助金、合併特例債を活用いたします。 次の小学校非構造部材　耐震化事業と次の欄の中学校非構造部材耐震化事業ですが、小学校３校、中学校２校の講堂の天井等落下対策工事を実施いたしまして、今年度で小中合わせて 22 校の工事を全て完了いたします。財源は、文部科学省の国庫補助金と合併特例債を活用いたします。 次に、小学校空調設備整備事業です。令和元年度から３箇年で小中合わせて 26 校の特別教室に空調設備を整備する予定としておりますが、今年度は、小学校８校にエアコン取り付け等の工事を実施いたしますと、令和２年度末までで小中合わせて約 50%の整備率となります。財源は、文部科学省と防衛省の国庫補助金と合併特例債を活用いたします。次のページを御覧ください。（仮称）英語交流のまち推進センター整備事業ですが、令和３年度末には、英語教育や国際交流の交流拠点となる施設をＪＲ岩国駅東口駅前広場に整備する予定としておりまして、今年度は、実施設計を行う予定としております。 次に、小中学校日本語指導支援員配置事業です。日本語が話せない、日

	常会話程度しかできない外国人子女に対して、学校への適応を図ることを目的としています。日本語指導支援員は、授業中に当該児童のそばに寄り添って日本語のサポートをしたり、必要に応じて個別の取り出し指導により、日本語の基礎・基本を教えたりする活動をしております。現在、61 名の日本語指導が必要な児童生徒が在籍しておりまして、川下小学校に２名、愛宕小学校２名、麻里布小学校１名の計５名の支援員を配置しております。財源は、山口県の再編関連特別地域整備事業の基金を活用いたします。 次は、英語教育推進事業です。小学校における国際理解教育及び英語教育の推進を図るため、英語を母語とする外国語指導助手、いわゆるＡＬＴを配置しております。今年度から小学 5・6 年生は英語が教科になっており、ＡＬＴを小学校間で配置展開することにより、パフォーマンステストなどの評価のサポートを効果的に行うなど、より質の高い授業支援を行います。小学校 32 校を 10 グループに分け、10 名体制のＡＬＴで指導を行っております。 次に、国際交流支援員常駐配置事業です。これは財源として再編関連特別地域整備事業の基金を活用いたしまして、中学校における国際理解教育及び英語教育の推進を図るため、英語を母語とする国際交流支援員を全 14 中学校に対し常駐配置いたします。本事業は、生徒への語学指導だけではなく、地域への語学指導、国際交流教室等を開催することによりまして、グローバル化により、増加する外国人とコミュニケーションを円滑に行う環境を整備いたしまして、生徒を含む市民への英語力向上を図り、安心して生活できるまちを目指してまいります。 次に、英語民間試験活用事業です。これは財源としてふるさと応援基金を活用しております。英語民間試験を導入することにより、その測定結果をもって授業の工夫改善を行い、教職員の指導力の向上や児童・生徒の英語力の定着及び向上を目指してまいります。市立小学校６年生及び中学校３年生全員に受検していただきます。昨年度は、小学校においては、全国平均を上回っており、学校においては、中学校卒業時に身につけておきたい英語力レベルである「CEFR-J　A1.2」が 63.3％となっており、今後は 70％達成を目指してまいります。 最後になりますが、英語交流のまち Iwakuni 推進事業です。内閣府より平成 31 年度から令和３年度の３年間にわたり、地方再生計画「英語交流のまち Iwakuni 創生プロジェクト」の事業認定を受けており、英語教育や英語を核としたまちづくりを行い、若い世代を中心とした幅広い層における英語の学びや学び直しなどを推進しております。今年度は、昨年度策定いたしました「英語交流のまち Iwakuni 創生プロジェクト基本方針」に基づきまして、各種イングリッシュ・キャンプや基地内交流ツアー、日米交流事業などの体験活動、英語教育推進フォーラムなどを開

	催するとともに、市民全体の英語力向上へ向けた環境構築の地方創生プロジェクトを推進してまいります。教育政策課からの説明は以上です。
学校教育課主幹	学校教育課です。まず、小・中学校学校給食運営事業です。予算額は、５億 7,370 万９千円です。平成 30 年度から学校給食運営基金を活用し、市立小中学校の学校給食費の無償化を実施しております。 次に、プログラミングロボット整備事業です。予算額は、181 万１千円です。令和２年度から完全実施となる新学習指導要領において必修化される「小学校プログラミング教育」で使用する「プログラミングロボット」を各小学校に配置します。 次に、確かな学力推進事業です。予算額は、353 万９千円です。今年度から、岩国市内全ての小・中学校で小中一貫教育をスタートします。これまでの主な取り組みとしては、市内３中学校区への研究校指定、発表会など、さまざまな事業を実施しています。本事業を通して、小・中学校の教職員や関係者が一堂に会し、研修することは大いに意義があり、目的の共有や相互理解が進むことで、子供たちの学力向上につながると期待されます。 次に小中一貫教育推進事業です。予算額は、162 万６千円です。今年度は、小中一貫教育担当者協議会を開催し、山口大学より指導者を招聘して研修会を行います。また、中学校区で合同研修会の開催や、ブラッシュアップ研究発表会を開催し、小中一貫教育の目的や取組を学校関係者だけでなく、保護者や地域住民と共有することを目指します。 次に、部活動指導員配置事業を御覧ください。予算額は、394 万５千円です。中学校の部活動に対し、専門的な指導や、大会への引率等を行うことなどを職務とする「部活動指導員」を配置することで、部活動の指導体制の充実を促進し、部活動を担当する教員の負担軽減を図ります。 次に、小中学校ＩＣＴ環境整備事業です。予算額は、10 億 7,053 万円です。教育におけるＩＣＴを基盤とした先端技術の効果的な活用が求められているとおり、小・中学校において、高速大容量の通信ネットワークの整備を行うとともに、児童・生徒１人１台の端末を整備するものです。これにより、学校の臨時休業等の緊急時においても、子供たちの学びを保障できる環境を早期に実現してまいりたいと思います。 以上でございます。
青少年課長	青少年課・教育センターです。初めに、いじめ問題等対策推進体制整備事業です。８月 21 日に、教育センターに、岩国市・和木町全 17 校の中学校の代表生徒が集まり、岩国市・和木町にふさわしい、いじめ防止スローガンを策定します。岩国市の教育の特色である小中一貫教育の枠組みを活かし、小・中学校が協力し、中学校区ごとに岩国市にふさわしいいじめ防止スローガンを持ち寄り、代表生徒による話し合いで、一つの

	スローガンを作り上げていきます。出来上がったスローガンは、ポスターとして、市内の施設で掲示するほか、市の広報やホームページでも紹介し、広く市民への啓発にも努めてまいります。 次の教育研修事業についてです。これは、令和２年度から完全実施される小学校学習指導要領の旨を踏まえた小学校の社会科副読本を作成するためのものです。新しい社会科副読本の特色としては、問題解決型すなわち課題を提示し、資料を基に共に考え合いながら、話し合いを深めていけるような構成にするとともに、岩国市に誇りと愛着を持つ児童を育てるために地域学習の教材、資料を掲載していきます。そのため、各地域から社会科に造詣の深い小学校教員を 18 名を編集員として選出しております。また、今年度より、専門的知見からのアドバイスや検証ができるように、学芸員に協力を仰ぎながら、作成していきます。加えて、取り上げる人物を再考し、資料についても見直しを行うと共に、写真やグラフ等も最新のものに変えていきます。現在、原稿の見直し段階に入っており、来年度４月からは、リニューアルした社会科副読本として、子供たちの手に届く予定になっています。 青少年課・教育センターからは以上です。
生涯学習課長	生涯学習課です。「とどける」家庭教育支援事業については、平田中学校区をモデルとして３箇年にわたり展開した国の委託事業を検証し、昨年度から対象を小学校に切り替え、現在 19 校に家庭教育支援員 33 名を配置しています。全小学校区での事業展開を目指しており、引き続き校長会等の機会を利用して周知を図り、立ち上げに向けた支援を行います。課題を抱える家庭や孤立しがちな家庭等を対象に、学校と協働して子育てや家庭の課題に関する相談対応や情報提供等を通じて、家庭の自立と課題解決につながる専門機関への橋渡しを行います。更に、この事業を教育委員会関係各課だけでなく健康福祉部局等の関係機関と連携し岩国市全体で展開することで、切れ目のない子育て支援、家庭教育支援体制の構築を図ります。 次に、こどもの館空調機整備事業について御説明します。老朽化により温度調整機能不全や熱交換器異音等の不具合が生じている、ホワイエの空調機器を更新します。 次に、中央公民館から中央公民館整備事業として、中央公民館の建替えに伴う基本計画の策定後、基本設計、事業認定手続きを行うとともに地質調査、測量業務を行います。また、駐車場予定地の買収に必要な不動産鑑定、建物補償金算定業務を行います。以上です。
文化財保護課長	文化財保護課から主な事業について御説明いたします。 シロヘビ飼育施設整備事業といたしまして、天然記念物「岩国のシロヘビ」の旭第一シロヘビ屋外放飼場の施設整備です。改修予定施設の面積は、1,020 ㎡でございますが、こちらの施設の土壌改良・屋根ネットの

	設置及び電気柵の更新を予定いたしております。土壌改良は、シロヘビの生活環境の保持のため、屋根ネットの設置及び電気柵の更新につきましては、シロヘビの脱走防止のための設備でございます。対象施設で飼育しているシロヘビは約 180 頭ですが、今月から順次、屋内施設に収容し、順に、駆虫等の健康管理作業を行うなど、できるだけ早い日程で、作業を進めたいと考えております。改修は年度内に完成予定ですが、シロヘビの更新された施設への移動は、来年度、冬眠から覚めた後、繁殖期前を目処に行う予定です。 続きまして、岩国徴古館でございます。まずは、「博学連携事業」でございますが、これは、学校と博物館が相互理解を深め、連携することで、教育活動をさらに深化させていこうとする取り組みです。この事業の実施により、子供達の郷土への関心を高め、郷土愛を育むと共に、身近な施設として博物館を活用していただくことができ、各種の体験講座や学芸員の派遣等のメニューを充実させております。 ２点目は、「岩国市博物館等施設再整備計画策定事業」でございます。昨年度と今年度の２箇年にわたる事業でございますが、今年度で、「岩国市博物館等施設再整備計画策定業務」を完了する予定です。この事業は、将来に向けて、博物館等の施設が担うべき役割・機能・資料収集のあり方・望ましい施設や運営形態など今後の組織の指針となる計画で、徴古館と岩国学校教育資料館及び由宇・本郷・美和の歴史民俗資料館などの施設等の再整備に係る計画を策定するものです。 簡単ではございますが、以上です。
中央図書館長	中央図書館です。主な取り組みについて、二つの事業を御説明いたします。 まず１点目の「各種講座開催事業」についてですが、「私の岩国」として、岩国市出身者や縁のある方を市のホームページ等で紹介していますが、その連携事業といたしまして、小説家の周防柳氏」を講師としてお招きする予定としております。当初、６月開催予定で、もうお一方お呼びする予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で、講師と相談の上、今年度は中止とさせていただきました。予算は、各種講座開催事業の報償費 20 万円を計上しておりますが、10 万円で開催予定です。 次に、玖珂庁舎建設事業についてですが、これは本年 10 月に完成予定の総合センター奏の中に玖珂図書館が移転するため、館内清掃業務物件委託料等 222 万 2 千円を予算計上しております。 このほか、玖珂総合支所地域振興課予算から、図書館用備品等 2,036 万 4 千円を執行委任されております。合計 2,258 万 6 千円となっておりす。 以上です。
科学センター館長	科学センターです。科学センター展示整備事業ですが、黒磯地区福祉交流拠点への科学センターの整備に向けて展示に関する検討を行います。

	展示の基本的なテーマにつきましては、「身近な月の科学」、「郷土の科学技術」、「岩国の自然の恵みと脅威」の３つをキーワードとして検討を進めています。以上です。
市　長	はい、それでは各担当課から説明をしていただきましたが、御意見、御質問がありましたら、よろしくお願いします。
村尾教育委員	青少年課の「私たちの岩国」、社会科資料集ですが、この編集作業にかかるとのことですが、岩国の３年生で習う行政機関であるとか、岩国が誇れる著名人、その他各地にある天然記念物であるとか素晴らしいものを網羅して、評価されているわけですが、今、活動がコロナの影響で子供たちの動きが悪くなっている。社会見学も難しい状況にある中で、これにＣＤを教師用に配る、加えて動画で見せるような内容のものがあれば、万が一、活動が自粛されても、見ることによって学べると思いますが、そういう考えはないでしょうか。
青少年課長	今、写真のデータで主に進められています。昨年度の当初から、編集が進められておりまして、コロナのことが出てきてからということではなかったので、動画についてはまだ整理ができてないところです。ただ、今後、拡大することも考えられますので、動画の資料もコンテンツとして岩国市のホームページに載せられるようになっておりますので、そういうところを通じて広く子供たちが見られる体制も前向きに検討していきたいと思います。
村尾教育委員	教科書についてもＱＲコードがあって、それを見ると動画も含めてわかりやすく説明している箇所があります。今後、写真だけということではなく、より分かりやすい形で動きも取り入れたものを発想として取り入れてもらいたいと思います。
市　長	これから、タブレットの時代となる環境が近々ありますから、タブレットでＱＲコードをカメラ機能で読めるので、その場でリンク先に飛んで、動画とか学習できるのもまたひとつとして、準備しておいてもらったらと思います。 ほかに何かございますか。
西村教育委員	学校教育課にお聞きしたいんですが、ＩＣＴ環境整備事業の中で、通信ネットワークの整備を行い、臨時休業等の緊急時においても、子供たちの学びを保障できる環境というのは、具体的にＩＣＴを使って臨時休業の時に、どういう形の学びをしていくか、形ですね。それを分かりやすく説明していただきたい。
学校教育課長	学習プリントを子供たちに渡すのですが、その学習プリントの解説動画を先生が５分から 10 分くらい撮って、その動画をインターネットで流して子供たちは解説動画を見て学習プリントを進めていくというやり方が一つ。次に今、実際にコンテンツをポータルサイト　ホームページに載せているのですが、それを見ることによって、ＮＨＫであったり、

	山口学習支援センターのプログラムを自分でするというのが一つ。また、学習支援とは別に子供たちのケアも大事になってくるので、Ｚｏｏｍであるとか、リモートで子供たちと一緒にホームルームをする、子供たちの健康チェックをする、または悩みの相談を聴くということを考えております。もう一つは、市長も言われた一人一台端末になりますので、それを持ち帰り、学習支援ソフトを入れて自分の学力に応じた学習を進めていくことも考えております。
西村教育委員	整備を予定しているタブレットを臨時休業の時に持ち帰ってもらって、家庭での学習に使うということでしょうか。
学校教育課長	今後、全部揃いましたら、それもできるようになります。
西村教育委員	はい、分かりました。
市　長	通信環境を整備しないとね。ルーターを使うとか。
教育長	今のところ、一斉の整備ができていない場合、環境がない生徒は学校の機器を使うとかで対応していこうと思っております。
市　長	学校の中ではＷｉ－Ｆｉ環境があるから、通信環境があるからいいけど、家に帰った時に使えるかどうかですね、ルーターを貸し出すとか。
学校教育課長	近々、アンケートをとって実態を調べるんですが、今のところ、１割から２割の家庭が環境がないという大体の数は出てきておりますので、そういう場合にルーターを貸し出しできるシステムを考えております。
市　長	何かございますか。
廣田教育委員	教育政策課と学校教育課と両方になると思いますが、英語関係のたくさんの事業が立ち上がっておりますが、ＡＬＴのこと、今から進んでいきます（仮称）英語交流のまち推進センター、英語教育推進事業、国際交流支援員の常駐等、たくさんの予算を使って様々な事業が進むようになっております。この事業は対象が学校の子供だけだったり、市民が対象だったり、子供と市民が一緒の事業と対象はそれぞれですが、その事業を有効に進めるために、教育政策課か学校教育課かどのような連携を取って、それぞれの事業を進めているのか、一つの例でもよろしいので、教育委員会の中を跨いだ連携というものをお話しいただいたらと思います。
教育次長	今ですね、学校へは、教育政策課にあります英語教育推進室から指導主事が一人ついて学校教育のほうへは随時入っていくという形を取っています。指導主事ですので、学校教育との連携を図りながら、学校に入っていってますが、その中で、GTEC の試験のことなどをサポートをしているということ。それから、英語教育推進室の中で一般市民に向けては、廣田委員が言われたように、ＪＲ岩国駅東口の推進センター等の計画をしておりますので、市民向けの英語交流のまちに向けた取り組みを行っていくこと。国際交流支援員が各中学校区に一人ずつおりますので、国際交流支援員を活用して地域の市民の方々や交流協議会等々の協力を

	いただいて、交流を図って、英語交流の促進を図っているというところで、学校を中心とした展開を国際交流支援員がソフト事業として展開しているところで、教育政策課が配置しているＡＬＴ、国際交流支援員、また学校教育課で行っている学校への各種取り組み等、そういう形で連携を図っているというところです。
廣田教育委員	例えば、今年、英語教育推進室の人数は増え、充実していますよね。ＡＬＴの方も。この辺のところが、まだ市民には伝わっていないところでもありますし、ぜひ、行政が充実させているところをアピールする場も必要ではないかと思います。ＡＬＴと国際交流支援員をしっかり現場で活用をして、現場でいかにネイティブな方を活用して英語教育あるいは国際交流に当たるかということで、潤沢な予算でいい人材をたくさん派遣されているので、あとはいかに学校あるいは地域で活用していくかというところを模索していけば、さらに充実したものになると思います。
市　長	ＡＬＴと支援員の違いを説明してください。
教育次長	ＡＬＴは今 10 人おりますが、英語の補助的な位置づけで各小学校に配置されているもの。国際交流支援員は中学校区に１人ということで、中学校 14 校すべてに常駐しておりますが、子供たちの英語教育に関わるのはもちろんですが、市民との関わりを深めながら、取り組みを行っていくということで、ＡＬＴは学校教育のみ、国際交流支援員は地域との関りも持ちながら、中学校区に１人という違いがあります。
市　長	同じ人が両方するということはないですね。
廣田教育委員	ＡＬＴは免許は持っているんですか。
教育次長	必須ではないです。今年はＡＬＴと国際交流支援員、同じところに委託していますので、連携も取りやすくはなっています。いろんなところでイベントのお手伝いなどをしていただいたりしています。
廣田教育委員	契約の時に、仕事の内容に縛りがなければ、しっかり交流したらいいと思うんですが。
英語教育推進室次長	雇用条件は同じで契約をしています。業務内容は、ＡＬＴは小学校の指導がメインです。国際交流支援員は地域への語学指導がメインで、プラス生徒への指導という形です。
教育次長	ＡＬＴは地域の方への指導が難しい状況ではありますが、国際交流支援員さんはしっかり学校の方にお願いして活用してほしいと言っているところです。
市　長	子供を基本として、地域の方に広げるということで、いい人材を活用していただけたらと思います。
教育長	ＡＬＴは、英語の授業だけですけども、国際交流支援員は、地域の交流をしたいが、今はコロナの関係もということもありますが、英語で数学の証明をしてみたり、ネイティブな英語を使いながら、体育とか給食とかいろんな学校活動に参加してもらっています。

市　長	任期とかあるんでしょうが、単年度で代わるのは、せっかく地域の方とコミュニケーションが取れ始めたころに、代わってゼロになるよりも、問題なければ複数年で地域に溶け込んでいくのもいいのかなという気もしますので。契約先と連携をとってもらったらと思います。
英語教育推進室次長	２年間は、ＡＬＴも国際支援員も一つの学校となっています。
市　長	再任もあり得るの。
教育次長	またそれは委託先との契約になるので、同じ会社と契約すれば同じ人が継続する可能性がありますが、会社が変われば人が代わるということになります。少し学校によって温度差はありますが、かなり活用してくれるようになってきたと思います。
市　長	活用の仕方を各学校で共有されたらいいと思います。
教育長	英語教育の通信を作って、学校の取り組みについて、ＡＬＴさんがこんな動きをしていますよということ紹介をしていますので、そんな様子を見ながら、助言していけたらと思います。
市　長	他に何かありますか。
西村教育委員	（仮称）英語交流のまち推進センター整備事業のことで、目的がリカレント教育を推進することで教育の機会を確保というのを目的の一つで挙げてあると思いますが、教育の機会を確保するというのは、がちっとした目的になって、そうであれば、その教育をすることによる目標、そういうことまで考えていかなければいけなくなる。もっと緩やかでいいのではないか、学習する場を提供するとか、教育機関としてセンターの一部を使うよりも、もう少し自由に参加できるような雰囲気を表すような内容の方がいいのではないかという印象を受ける。これだと学校みたいな感じなので、本当はそうではないんだろうなというのは分かりますが。
市　長	そうではなく、委員が言われたように、例えば留学をしてみたい人がいれば、サロンだったり、異国の習慣とかを習ってみる、試してみる、ハードルを下げた感じのもの。教育の場とした、がちっとした講座を受けたりする所ではないです。
教育次長	教育委員会が教育政策課の中でしている事業ですので、表現としては固くなっています。
西村教育委員	生涯学習に近い感じですね。学習という感じのほうが柔らかいかもしれないので、また検討してみてください。
市　長	ほかに何か。
廣田教育委員	英語の関係で、ベネッセコーポレーションの GTEC の一つの大きな柱が試験を受けた後の子供への返しはもちろん、教師、指導者へのアドバイスが一つの大きなメリットだったと思いますが、先生方へのリターンがあったかが分かればお願いします。
教育次長	昨年、小・中学校両方実施しまして、事前事後の研修を教職員に対して

	行っています。事前は GTEC の試験のやり方についてが主だったんですが、事後については、成績が出た中で、その子の強いところ、弱いところが出てきます。統計的に見ることができるし、各先生方には学校の子供たち一人一人の成績も分かって、個別の指導もできますが、事後の研修の中では全体的な傾向として子供たちにこういう傾向があるので、それについては、授業の仕方をこういう風に進めたほうがいいのではないか、というようなところを研修の中で行っています。
英語教育推進室次長	来月、Ｚｏｏｍを使った研修会を開催して、その中で結果を踏まえて、具体的には、中学校についてはスピーキングが弱い傾向が出ていますので、重点的に行いながら、来月は、Ｚｏｏｍを使った研修会を開催し、昨年度の結果を踏まえての指導改善を行いたいと考えております。
廣田教育委員	Ｚｏｏｍを使った研修会の対象は。
英語教育推進室次長	各学校１名の先生を対象にしています。
教育次長	去年の段階では集まれたんですが、コロナの関係で学校から代表に来ていただいて、持ち帰ってそれぞれの英語の先生に伝達をしていただくという形でしています。
市　長	GTEC の前回の評価を見た記憶があるけど、委託費の中に課題の整理とか、先生の指導方法とか、専門的な見地で集めてお知らせしますよということはセットだったので、そこはＺｏｏｍでというか、工夫をしてできれば資料を見ながら、評価なりをしてもらってもいいのではないか。しっかりフォローを徹底してほしい。 はい、ほかに何かございますか。
村尾教育委員	小中学校の日本語指導支援員配置事業ですが、これは５名を配置していますが、これはすべて小学校に配置ですか。
教育次長	川下２名、愛宕２名、麻里布１名。小学校です。
村尾教育委員	中には、中学校へも外国の方がおられる例もかつてあったんですが、任用職員の弾力的配置ということで、できたら、もし 61 名の児童・生徒がいるということですから、生徒も含まれているわけですよね。中学校にはほとんどそんな機会がないんです。この日本語指導をする先生が。教員がにわか作りで日本語を教えるという形で、日本語に慣らすというふうな中学校の体制をとっているんですが、効果的に日本語を学ぶ機会がないので、できたら小学校の日本語指導支援員を定期的に、中学校に回せるか、ということをお聞きしたい。
英語教育推進室次長	まず、県費で職員を配置した上で、市費で雇用し配置する体制をとっております。小学校に５名おりますが、中学校とのバランスをとって配置しております。
村尾教育委員	毎年、数は変わってくると思うが、早く日本語に慣れるという環境づくりをしていただけたらと思います。
学校教育課長	実際にはこの４月から日本語が話せない子が新たに４名入ってきてい

	る。川下小、愛宕小に入ってくれたら対応できるが、それ以外の学校の場合は、タブレットであるとか翻訳機を使って先生とか特別教育支援員達が何とか対応しているのが現実ではあります。難しいところはあります。基本的には県が雇用している日本語指導教員と市で雇用している職員とが連携しながら各学校間で調整をしているところです。もう一つはコミュニティ・スクールを使って、川下地区に日本語も英語もできる方がいらっしゃいますので学校に入っていただいて、支援をしていただく、こういうことも工夫の一つとしてあります。
村尾教育委員	ボランティアの活用と、できたら日本語教育の任用職員、これも併せてやっていただきたいなと思うんです。それも、含めて考えていただきたいと思います。
市　長	１ページ目から流して確認しようと思います。小学校低学年トイレセミリフォーム。今回、岩国小学校、建築と整備で合わせて 500 万円ですけど、幾つかまとめてということですよね。一つだけで、こんなにかかるものではないと思うんだけど。
教育次長	そうですね。１階、２階で、男女もあるので。
市　長	次の東小中学校校舎建設事業、予定どおり２学期からの開校に向けて準備をしてもらっていると思いますが、その後、解体もまだあるので、時間がかかるでしょうけど。委員さんには内覧の機会がありますので、その時また質問をしてもらえばと思います。 あと次に小・中の天井等落下防止対策工事でありますが、気になったのが、麻里布中は金額が１億近い、超えたりしていますけど、小学校は数千万です。そんなに違うんですか。大きさがそんなに違うことはないと思うけど、工事内容が違うんですか。
教育政策課施設班長	中学校は天井の張替えになります。川下小学校はネット設置だけになります。
市　長	事業名が全く一緒だけど、工事の施工方法が全く違うということですか。
教育政策課施設班長	ネットを張るだけか、天井のまるごと張り替えかの違いです。
市　長	本来は、夏休みにする工事だったんでしょうけど、コロナで夏休みも縮小されて、学校行事が厳しい中で工事の影響が出てくると、子供たち、可哀そうかなというところがありますから。 空調は特別教室をやるんですね。岩国市は全国に先駆けて、普通教室は既に財源を用いて、しっかり整備をしていますので、引き続き特別教室へのエアコン空調設備を鋭意頑張っていますので。ほかの学校はなかなか整備されてない中で岩国は早くに整備したということは、今回も対応できたということ。予算もかかってはいますが。 夏休みの授業が大変助かっています。
教育次長	学校教育課の方の、給食、プログラミングロボット、確かな学力、小中

市　長	一貫関係、何かございますか。
西村教育委員	小中一貫教育はスタートしていますが、今のところ、スタートしてみてどんな状況でしょうか。問題なく進んでいるか、いろいろ課題も見えてきたとか、現実スタートしている訳ですから、その辺を聞かせてください。
学校教育課長	実際には、昨年度から試行という形でスタートを切っております。小学校、中学校の先生が、授業を乗り入れで見に行ったりとか、夏休みは特に多いのですが、地域の方が一緒になって熟議をする、研修会をする、というふうなこともできております。今年度、最初スタートはコロナがあり、なかなかできなかったというのもありますが、やりましょうということで、今年特に多いのは小学校の先生が中学校の授業を見に行きましょう、中学校の先生は小学校へ行って、子供たちと触れ合いましょう。これらを中心にお願いをしているところです。もう一つは、小さい小学校の小小連携、ここがうまくいっていないことが、面談の中で出てきています。リモート会議も使って先生方は顔を合わせて、一緒に教材研究をしたり、小中一貫教育の中で進めてきており、成果になってきていると思っております。
西村教育委員	今のところ、予定通り、順調にということですね。
市　長	はい、ほかにございますか。 新規でプログラミングロボット、前回デモンストレーションをして、平田小学校でやっていただいて、その流れで、今回は、全小学校に入れるということですよね。先生方もかなり勉強されるんですか。
学校教育課長	そうですね。思わぬ成果というのが、例えば言葉での説明力がすごく上手になることが分かったんです。プログラミングで、プログラムを入れて、物を動かすことも大事ですが、プログラムを使わないで言葉で説明をする。例えば、底辺５センチ、高さ 10 センチの二等辺三角形を書きます。それを友達に言葉で伝えていく。それで友達が書けるかというとなかなか書けない。５センチの線を引きましょう、高さ 10 センチとるためにコンパスを使って、中点を取りましょう。とかあとは、この角度を何度、分度器でとりましょう。どういうやり方が一番、隣の人に伝わりやすいのか、何を使ったらいいのか、というのをすると子供たちは混乱していく。そういった意味でプログラミング教育を進めていく中で、子供たちの説明力がつくなという新たな視点が分かったのがすごく大きかったなと思っています。今年は灘小学校で３学期に発表することになっています。
市　長	部活動指導員配置事業、いかがですか。
学校教育課長	現在、５名の方に委嘱しておりますが、そのうち４名までは今まで中学校で指導をしていただいた方で、1 名につきましては全く初めて公募で来られて就いたということで、一つ成果があったかなと思っておりま

	す。
村尾教育委員	主に、球技ですか。
学校教育課長	球技もありますし、柔道も音楽もあります。様々です。 14名の予定でのところ、５名ということで、まだ９名、募集はかけています。
教育長	それぞれの学校の希望を聞いて、募集をかけています。今来られた方と面談をして、配置することにしています。
市　長	随時、面談をしてよければ採用ということですね。
廣田教育委員	募集はどういう方法で周知していますか。
学校教育課長	各学校からも出ていますし、ＨＰ、広報で出しています。
市　長	あまり、知らない方が多いのかもしれませんね。募集していること自体があまり広く周知されていないところもあるかもしれませんね。
教育次長	再度、周知、方法について検討をさせていただきます。 この学校では、どういった種目、競技の方を探しています、募集をしていますよと言わないと募集をする方も全く畑違いだったらいけませんしね。
西村教育委員	ハローワークに出していますか。
教育次長	はい、ハローワークにも出しています。この学校は、この種目でと募集しています。学校の状況によって、強くしたいところがありますし、教務主任が顧問を持っていて忙しくて見れないということもありますし、学校の事情があるようです。
市　長	４ページに移りますが、ＩＣＴから教育センターの関連、文化財のところまで、何かございますか。
竹田教育委員	生徒一人一人が端末を持って、臨時休業時に対応できるということだったと思いますが、子供たちが家に帰って、学習支援ソフト以外にインストールしたりできるんですか。
学校教育課長	家に帰って、子供がインストールは基本的にはできないと思います。
竹田教育委員	ＧＩＧＡとかありますし、勝手にユーチューブとか見れたらいけないなと思いまして。
市　長	すららはあれは学校でしか見れない。
学校教育課長	青少年課の方が基本的にはやっていますが、今、すららについては、無料で提供していたのは中止になり、不登校児童、生徒についてはすららは継続しています。
青少年課長	すららにつきましては、コロナ禍による対策ということで、企業が無償で全国で 50、追加で 50、合計 100 箇所の学校、教育委員会を募集しました。それに手を挙げた形で岩国市は使わせてもらいました。　それが５月の連休で終了になりました。今後については、子供たち、不登校の児童・生徒の学習支援という形で、すららと共同で支援を進めていくということで今、総務省の事業に手を挙げて、それが採用されれば、

	９月から再度、不登校の児童を対象とした学習支援という形で、家庭でもまた支援教室でも活用できるいう形を目指していくということです。
学校教育課長	臨時休業になり、すべての子供たちが使えるソフトについては、まだ今検討中です。無償のものもいろいろ出てきております。ソフトバンクなども出しているということなので。
市　長	ダウンロードしてあげれば、独自で探してやるよりも、いいでしょうから。
廣田教育委員	市が予算をつけて申し込もうとしていたら、コロナで無償でということですよね。
青少年課長	支援教室の子供たちが３時間の学習しかできないということで、家庭学習も含めて学習保証していきたいところを主たる目標として我々も検討していたところにということです。
廣田教育委員	分かりやすく、いいソフトと思いました。よくできた内容でした。解答もあるし、考え方もあるし、ここでつまずいたら、ここに戻ったらいい。
市　長	小学生が対象？
青少年課長	小学校から高校までで、無段階で学年ではなくて、本人がつまずいたところから始める、よくある公文のような形。自分が学習していけば、どんどん進めていくという形のものです。できる子はどんどん進めていく、小学校から高校の内容まで。中３の子供がやっていたんですが、実は昨年度、高１のものをしていた、先取りしてやっていたということもあります。
廣田教育委員	すららが対象の人数によって価格が違う、基本料金が違うということなんですね。岩国市内の全小・中学校を契約したら莫大な数になる。
市　長	広域でうちだけではなく近隣の教育委員会と県下で統一するとか、契約すればまた負担も分かれると思うし、うちだけでするよりいいですよね。
教育次長	買取方式とかあればいいのですが、単年度で人数によって契約になってくるので、継続が難しいやり方なんです。その辺が解決できるといいのですが、業者側の思惑もありますし。
西村教育委員	塾とかそういう所が使っているところもあるんですか。
青少年課長	はい、そのとおりです。
西村教育委員	月謝を払って塾は行きますから、有償のもので、学校を全部入れるのは難しいでしょうね。塾へ行く意味がなくなりますから。
教育長	その前の段階、プリントごとはあるんですけどね。この講座はこれを受けるとか、基礎、基本の内容は無償でＮＨＫとか文科省とか、県も今は作っています。大学でも作っている、教育委員会がＨＰにアップして、それぞれの学校から入れるようになっています。単元ごとに。
市　長	その下にいじめサミットが今度あるんですか。これはいつですか？
青少年課長	８月 21 日です。教育センターで、中学校、和木町も含めて 17 校の生徒

	の代表者が１名が集まって、話し合う。みどり中も高水も入っています。
市　長	シロヘビの飼育施設が藤河に新しくできて、この予算は旭第一の土壌改良、ネットと電柵をということで、先ほどの説明では、ここに 180 匹いるということで。全部で何箇所ですか。
文化財保護課長	屋外は全部で６箇所ございます。市が４箇所と保存会が２箇所です。旭が２箇所、天神、白蛇神社の前が一つと、藤河が市の所管です。尾津の市場の前に１、２と二つございます。トータルで今、千匹ちょっとです。その中で一番大きい施設がここです。
市　長	財源は。
文化財保護課長	市です。
市　長	何かございますか。
村尾教育委員	餌は、ハツカネズミを定期的に与えるんですか。大体、年間何頭くらい与えるんですか。今の施設に対して。
文化財保護課長	総数で３万という数字が出ているのですが、それ全部が餌になるわけではないので。
市　長	１回、捕食すると、当分、食べないんです。 １週間に１回くらいの餌やりです。
文化財保護課長	屋外ではまとめてやるので、食べれる子もいるし、食べれない子もいるし、ネズミが逃げて捕まらない子もいるしということで。
市　長	１回食べたら、１週間、10 日は食べなくていいということと、冬時期は冬眠があるから、食べない。
村尾教育委員	卵からかえって、生まれて１週間、２週間の小さいヘビは何のエサを。
文化財保護課長	同じです。ただ、マウスにも大小がございますので、小さい子には小さいものをということです。
村尾教育委員	赤ちゃんのシロヘビ、食べるんですか、ちゃんと。
文化財保護課長	時期を見て、屋内で飼うときに与えてますので、その個体の進行状態によって管理します。
西村教育委員	ハツカネズミでないとだめなんですか。
文化財保護課長	今までいろいろ餌を試したそうなんですが、やはりそれが一番ということで。
西村教育委員	餌としたら高価な部類に入るのですか。
文化財保護課長	高価だと思います。
市　長	過去、800 匹くらいが平均的だったんですよね、飼育数は。それが、順調に健全に保存状況が飼育がいいというので、200 くらい増えて 1,000 強くらいでしょ、その分餌代もかかっておりますよね。
西村教育委員	適正な飼育数ってあるのですか。増えるだけ増やしていくという感じですか。
文化財保護課長	今、方針としては 1,000 匹強を維持するということで個体維持ができるのではないかということで先生方に意見をいただいておりますが、今の

	ご時世ですから、飼育所で伝染病などが流行ったりしたら、数が減るので、その辺も考えながら余裕をもって飼育をしていきたいと考えております。
市　長	だから６箇所に分けてるんですね。
村尾教育委員	生き物を飼うというのは大変なことなんですね。食べ物から始まって、伝染病の話も然りで。
文化財保護課長	飼育員もそうですし、ヘビ自体の健康管理も細心の注意を払ってもらっています。
村尾教育委員	奇形が生まれたりする場合もありますか。
文化財保護課長	今のところ、そういったケースが出てるという報告はない、専門家と話すときには、異常を感じるほどの報告はないということです。
市　長	シロヘビの寿命はそんなに長くないんですよね。
文化財保護課長	どうしても血が濃くなってくるんだろうとは思いますが、交配するのに系統ごとに分けているのですが、1,000 匹ですから、離れても、みな親戚になります。
村尾教育委員	自然のシロヘビはめったにいませんか。全くゼロですか。
文化財保護課長	ゼロということはないですが、屋外で見つけて保護したときに、チップを入れているのですが、チップがないものも捕まってはいるのですが、飼育場から逃げて成長したのか、飼育場とは関係ない個体なのか確認が取れないとのことですが、ゼロではないみたいです。チップがない子が見つかることは。
市　長	５ページ目に徴古館、それから科学センターがございますが。
西村教育委員	博物館等の整備計画が２年目になりますが、１年目を終えて、どういう状況かということと、よその自治体で見本になるようなものを考えておられるか、状況を説明してください。
文化財保護課長	１年目は、現業の把握をメインにしていました。それぞれの施設によって、徴古館はそれなりの利用度がありますが、それ以外の歴史資料館であるとかは、利用の低下があるということで、何とかしなければならないという共通認識は得ています。将来的に思いますのは、みなさんに資料を見ていただく機会を提供する、どこの地域にお住まいでも、どこにいても岩国の歴史に触れる機会ができるような運営の方法がないだろうかということをメインで考えております。
西村教育委員	資料を保存する場所ですよね。徴古館は蔵に入れていたり、保存する場所がないような感じがします。貴重な資料を。展示と同時に貴重な資料を保存することも併せて、課題を見つけていい計画を立てていただきたいと思います。
市　長	他にございますか。
廣田教育委員	一番下の科学センター展示整備事業ですが、黒磯地区福祉交流拠点、一環として科学センターが入るということですが、展示に関する検討を行

	うとありますが、進捗状況と展示のコンセプトの下、動いておられると思いますが、お話を披露していただけますか。
科学センター館長	今、科学センター整備検討委員会を立ち上げて検討を進めているところです。展示の基本的なテーマについては、「身近な科学」、「郷土の科学技術」、「岩国の自然な恵みと脅威」の３つをキーワードに取り組みを進めているところです。
廣田教育委員	分野を絞ることなく、あらゆるいろんなものをという、岩国の特色を活かしたという解釈でいいんですか。
科学センター館長	その中で、防災、科学といいますか、自然の脅威、錦川を軸とした豊かな自然がありますから、自然の恵みと脅威といった防災科学、そういったところの特色を挙げていくのと、ミクロ生物館がございまして、そこと連携を取りながら生物といったところが特色になると思います。それ以外についても科学の分野は広いので、科学の基本を学べるような所になればいいなと思っております。
廣田教育委員	今、検討委員会で絞り込みをしているということですね。
市　長	全体的に複合施設なので、福祉の関連施設も入ってくるので、その中で、科学センターの機能のスペースは確保してます。この面積、このエリア、あと動線とかを考えて、どのようなものを入れるかは今からしっかり話を詰めていくということなので。体験とか工作したりすることとか、展示室とかその辺をきちんと面積とか配置計画は盛り込むようにしています。大きなホールが別にあるので、そこはいろんな団体が使えるようになる共有のスペースもいくつかあって、それを含めて科学センター、専用施設、供用施設、いろんな使い方が提案されているので。秋ぐらいにまとめてお示しできるかなというところです。
廣田教育委員	とてもいいコンセプトでした。福祉関係、子供たちも親子も高齢者も色んな方が交流をして体験できるというコンセプトですね。それに対応できるような、楽しい企画もしていただいて。
市　長	出来た後もいろんな企画がミソというか、ありますからね。
教育長	学校、児童。生徒とも授業等に活用できる工作というものも考えておりますので。
市　長	場所が場所なので、踏切からしかアクセスできないので、拠点施設ですから、アクセスの改良も同時に考えてするので、科学センターだけではなく拠点とか道路とか、ほかの課もまたがって政策的に進めています。
廣田教育委員	あっちの方面に大きな施設がないので、とてもいいと思います。
市　長	ほかに何か。これ以外、また戻っていただいても結構ですが、まだ若干時間がありますので。
廣田教育委員	次長と市内の各小中学校を回っているんですが、コロナの状況と授業内容と子供たちの健康管理。文科省の指導でもあるので、クーラーをかけて風の流れを良くするということで、窓を開けて、外の窓も開けて内側

	の廊下側の窓も開けて、窓を取り払っているところもあるし、開けてやっています。それがとてもいいのですが、そうすると夏で虫が入ってきて、特に山間地の学校だと田んぼやらからいろんな害虫が入ってきて、虫対策が必要ですね、という話をしました。それで、防衛省の予算のところは少ししか開かないので、網戸がつかないんです。どうしたらいいんですかね、という話をしたので、その辺のところを学校からいろんな要望が　来ると思うんですが、学校だけで対応は難しいので、教育委員会としても何かされることが必要かなと思います。
学校教育課長	実は昨日、先生と話をしたのですが、各学校に 100 万円から 200 万円の予算が下りるということで、コロナ対策に使えると。一つとして、網戸はどうだろうかと。教育政策課とも話をしなければならないが、窓枠をはめる様なものがあるみたいですので、それであれば簡単にできるので、そういった予算で今、各学校で必要であれば設置していただくということを今考えているところであります。
市　長	今回の国の二次補正で入ってますので活用されたらいいと思います。
村尾教育委員	今のことに関連して、行事がどんと変更されてきています。修学旅行等も秋にするということで、今、東京や大阪も感染が徐々に広がりつつありますよね。昨日も廿日市で、感染ルートがわからないということで、１名かかっています。第二波が来ないとも限らない。そういった中で、中学校の場合は京阪神ですよね、それよりよその場所に希望されて行くケースもありますか。
学校教育課長	県内で、山陽小野田市は、全部九州にしましょうと、中学校は。洪水で大変なんですけど、そういうところもあります。市内の中学校の校長先生に変更も検討してくださいとお願いして、今、アンケートして、上がってきております。全ての中学校は今のところ京阪神。京阪神でするのであれば、一つの旅館でほかの者と関わりがないようにするとか、基本的に最悪の場合は、バスだけのツアーですね。等になっていくのかなと思っています。状況によって、臨機応変にしたいです。
村尾教育委員	中学校の場合、自由行動が一日ほどありますね。そういった時に、コロナ対策として、人との距離とか密集した所に行かないとか、特段、教育の中で盛り込まれているのですが、そういった配慮も含めて多くなった時に、また考えなくてはいけない場面が出てくるとおもいます。その辺りも含めて、御指導いただいたらと思います。
学校教育課長	ＵＳＪがもしかすると、閉鎖になる可能性もあります。その辺も併せて考えていきたいと思います。小学校においては、県内ですので実施可能かと思っています。最悪、県内でもできない時には、岩国のホテル組合の方たちから、岩国のホテルに一泊してください、という宣伝もいただいていますので、小学校の校長先生にも周知してあります。最悪の場合は、岩国の地域を知ろうということで、岩国での修学旅行というのも考

市　長	えています。岩国の文化をもう一度見直そう、歴史を見直そうという一つの授業ではなく、最悪の場合です。 今年、コロナの関係で子供たち、非常に制限されていますので、その中でできることをしっかり我々が考えて、工夫してできることは、させてあげたいな、と思いますから、連携して取り組んでいきましょう。 11 時半になりまして、1 時間半が過ぎたところです。12 時まで取ってありますが、ほかになければ、よろしいでしょうか。また何かありましたら、それぞれお聞きになられたらと思いますので。 今日は色々、忌憚のない意見交換をできたと思っております。これからもしっかり連携しながら教育行政を、しっかりと推進できるように共に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。 今日は大変お疲れ様でした。